

☒ 話すこと ☐ 書くこと

☒ 個に応じた教材の作成や指導の充実
☒ パフォーマンステストでの活用

☒ 授業での活用
☐ 課外活動での活用

☒ 家庭学習での活用

実践のポイント

「話すこと」における発話機会の保障と個別最適な学びを実現するELSA活用の工夫

実証概要

<校数> 8校(中学校:8校) <人数> 1,400名

<学年> 中学校:第2、3学年 <アプリ等> ELSA Schools(ELSA Japan合同会社)

<AI機能について>

(1)Pronunciation Skills(2)Vocabulary(3)Read Aloud(4)AI RolePlayの機能があり、英語の正しい発音を身に付けたり、学習指導要領に対応した英会話機能を活用してスピーキングスキルを向上させることができる。

AIの効果的な活用方法や取り組み (AI英語モデル校事業)

●生徒が学び方を選択する主体的な学びの促進

複数の学習方法を提示する際に、それぞれの目的や効果、選択の視点を明確に示すことで、生徒が自己の課題に応じて学び方を選択できるようにした。さらに、AIの即時フィードバックを活用して学習の状況を把握させ、見通しをもって学習に取り組み、振り返りを通して学び方を見直す機会を設定するなど、学習指導要領に示される「主体的に学習に取り組む態度」の育成や自己調整的な学びの実現を図る指導の工夫を行った。



●ELSA活用時の教師とALTの連携

ELSAの評価結果を教師とALTで共有し、教師が学習状況の把握と支援の方向付けを行い、ALTが発音や表現のモデル提示や対話的な指導を行うなど、役割分担を明確にして連携を図った。本取組は、言語活動を通してコミュニケーションを図る資質・能力を育成するために位置付け、AIによる練習と対話活動を組み合わせることで、目的や場面に応じて英語で伝え合う力の育成を目指した。



実践成果の検証結果 (AI英語モデル校事業)

①児童生徒の英語力の変化

東京都英語力スピーキングテスト・中3
渋谷区平均スコア

R5:68.0 R6:72.9 **R7:78.4**

2年間で10.4ptUP

※モデル校8校中2校の平均スコアが
A1相当(80点未満)から
A2相当(80点以上)に上昇

②児童生徒の関心・意欲の変化

英語の学び方を自分なりに工夫している。

4月:67%→10月:85%

クラスメイトと英語で会話することは得意だ。

4月:47%→10月:72%

③教師の指導の変化

AI活用により、パフォーマンス評価をより頻繁に行えるようになった。

→64%

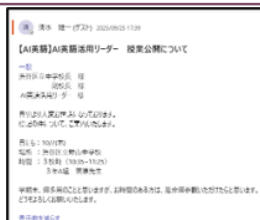
授業での指導の改善・工夫を行う際、AIのフィードバックが役に立った。

→71%

AI英語活用リーダーの育成や普及に関する取り組み (AI英語活用リーダー事業)

●情報共有チャネルの活用

コミュニケーションツールを活用し、各校のAI英語活用リーダーとの情報共有、提供等の場を設けた。主に勉強会、授業公開の案内を記載した。



●授業公開

9月、12月の公開授業に加え、都の授業力向上事業、全国からの視察等、で授業を公開。指導法について協議を行った。



事業全体を通じた成果や課題、今後の取り組み (AI英語モデル校事業・AI英語活用リーダー事業)

AIの即時フィードバックや繰り返し学習により、発話量の増加や学習意欲の向上が見られた。一方で、生徒によっては自ら課題を把握し適切な学び方を選択することに難しさが見られ、学習の質に差が生じることが課題として明らかとなった。今後は、教師が学習の見通しや振り返りの場面を意図的に設定するとともに、生徒が自己の課題に応じて学び方を選択できるよう支援を充実させる。また、教師とALTの連携を一層強化し、言語活動を通じた指導の充実を図ることで、実際のコミュニケーションに生きて働く英語力の育成を目指す。